

長野県革新懇ニュース

2022年7月号
発行日7月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971



発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 金井忠一さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」桂木恵さん
- 3面 日本の食糧はどうなっているか 菊池敏郎さん
読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「拍手は似合わない」窪島誠一郎さん
写真で巡る信州と戦争 北原高子さん
映画評論『テレビで会えない芸人』 内山到さん

長野県革新懇

検索



1950年上田市生まれ。上田市役所に25年間勤務後、上田市議会議員(5期)、上田市農業委員(3期)を歴任。市議時代から、3000件を超える生活相談にのり住民に寄りそってきた。上田市長選に2回(14年、18年)挑戦。2018年の知事選に挑戦。「リニアよりクーラー」の訴えは、ただちに県政を動かす、クーラー設置がすすんだ。現在、長野県生活と健康を守る会連合会会長。

県民に寄りそう県政への

転換をめざす知事選に

かない ちゅういち
金井 忠一 さん

(長野県知事選予定候補者)

4年間の県政をみて 出馬要請を快諾

Q 立候補に当たった際の決意をお聞かせください

前回に続いて2回目の立候補になりますが、前回以降、県政に対して大きな関心をもち、大北森林組合やコロナ対策、リニア問題などにたえず注目をしながら4年間を過ごしてきました。そんな中で、次の知事選に向けては現職よりも早く誰かが出馬表明しなくてはいけないという思いがいつもありました。私も「明るい県政をつくる会」の代表委員の一人ですから、候補者選定にあたっては、前回出た人間が再度出た方が継続性もあるし戦いやすいだろうということなどで、要請を受けた時に、あまり悩まないで二つ返事で引き受けました次第です。そ

も私も断ることを知らない性格なんです。十分か不十分かは相手が決めることで、私が決めることではないと思っています。

県民に向き合う あたたかい県政を

Q 知事選に当たってはどのような政策を掲げていますか？

大きくくれば3本の柱立てです。

一つは、県民に寄り添わず、国に対してものが言えない典型的な官僚県政の転換です。一見、無難な県政運営に見えるけれども、県民の方を向いて切実な要望や願いに添えていくという姿勢は見えませんが、最近の二つのことを通じてその思いをいっそう強くしました。一つは3月県議会

において、全ての物価が上がる中で、国に向かつて消費税を下げるように求めるべきとの議会質問に対し、消費税は重要な財源であるので、国に対して引き下げは求めないと答弁したことです。これは正に国の方を向いていて、住民の生活の方を向いていないということの表われです。物価については実施分を含め、2万円以上品目が値上げされる見込みです。その幅も多いものは2倍3倍です。お盆になつて良くなるのか、来年ならよくなるという見通しは全くありません。

が高騰してきていて、生活困窮者の皆さんが寒い冬を乗り切れるかどうかという時でしたから、福祉灯油の補助を出してもらいたいという要望を出したんですが、県の答えは、そういうことは市町村がやることだということでした。それでは一体県は何を果たすのかとその時に思いました。新潟県や福島県、岩手県などでは県も補助を出しています。3000円から最高3万円の補助を出したんです。やらなかったのはただ一つ、長野県だけです。こういうことを見つけた時に長野県政の冷たさを感じました。ですから、県民の命と暮らしを守るためには、国の方ばかりを向いているのではなく、県民に寄り添う県知事が求められていると思います。

子どもたちや若者が 希望が持てる県政を

二つ目は、未来を担う子どもたちと若者が、希望が持てる社会を実現する県政への転換です。4年前の知事選の時にも記録的な猛暑が連日続きました。そんな中で「リニアよりクーラー」と訴え、県民の心をとらえ共感を呼びました。あの時は、暑さで多くの人が亡くなり、気象庁も「自らの命を守る行動に入ってください」と呼びかけるほどでした。丁度、私の孫が中学と高校にいたのですが、「暑くて勉強できない!」と言っていたことが頭にこびりついていました。そんな折、選挙戦で最初に行ったのが大鹿村でした。南アルプスの自然を壊

して、リニアの建設がすすめるられていましたが、現地を見て、こんな無駄なことはしてはいけませんと痛感しました。その時にリニアより教室にクーラーを設置して、涼しい中で勉強できるようにすることの方が大事だと思い、選挙戦で訴えました。その結果、阿部知事もクーラーの設置を表明し、この4年間ですべての教室にクーラーが設置されることになりました。だから知事選は勝つか負けるかだけではなく、県民の切実な要望を政策化して、県民の心に盛り上げていくことも重要な戦いだと思っています。

今回も各地で「金井さん、今度は何をやってくれるんですか?」と聞かれます。実はすでに答えを出していて、今度には義務教育学校の給食の無償化を実現したいと考えています。シングルマザーが大変に増えています。そうした皆さんの働き方はダブルワーク、トリプルワークなどできついですから、子どもたちの朝食もおおざり、夜になつてもコンビニの弁当だとかおにぎりなんかで済ませているお子さんがいっぱいいます。だから、子どもたちにとって、ちゃんとした食事は給食だけなんです。給食が子どもたちの命を守っていると、言っても過言ではありません。学校給食は、食育としても非常に大事な教育の一環なので、なんとしても実現していきたいと考えています。

無償化ができるかどうかと聞かれれば、私はできると思っています。ご存じのように新婦人の皆さんや多くの皆さんが長年要望してきた小中高生の医療費の無償化ですが、長野県はようやく4月から小学校3年生まで実施しました。そのことで77の市町村の大部分が高校3年生まで無償にしました。これは画期的なことだと思います。ここに県の果たす役割があるわけです。県が市町村を少しでも応援すれば、市町村は独自に措置を拡充できるわけです。今、77の市町村を回っていますが、下條村の村長さんは給食費を7割補助していると言っていました。下條村では子どもが

三つ目は、県民の声が届く身近な県政への転換です。残念ながら県民にとって県政というのは遠い存在です。永田町より遠い。永田町のことと比較的テレビで出てきますが、県政の動きはほとんどわからない。しかし、県民が県政を身近に感じた時もありました。功罪はともかく、田中康夫知事の時です。知事が自

県民の声が届く 身近な県政を